

平成 25 年度 機器・分析技術研究会報告

自然科学系技術班 鎌田 浩子
機械・環境建設系技術班 重松 和恵

主 催：国立大学法人鳥取大学
研修期間：平成 25 年 9 月 12 日（木）～ 9 月 13 日（金）
研修場所：鳥取大学（鳥取キャンパス）

1. 目的

機器・分析技術研究会は国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校等に所属する技術職員にとって、研究発表や意見交換の場として無くてはならない研究会である。その職務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門的知識、技術等を修得させ職員としての資質の向上を図ることを目的とする。

2. 参加状況

今回の技術研究会における参加登録者数は、全国の 42 大学より 199 名、7 高等専門学校等から 7 名、3 機関の研究所等より 5 名の参加、計 211 名であった。

3. プログラム概要

- 1 日目 受付
開会式
特別講演
ポスタープレビュー
ポスター発表コアタイム
情報交換会
- 2 日目 特別企画
ポスタープレビュー
ポスター発表

3.1 「地盤工学としての地盤の液状化現象－原因・被害・対策－」鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻土木工学講座 清水正喜教授

鳥取県西部地震の際、畑に噴砂・塩害被害がおきた事例や六甲アイランドのポートアイランドの液状化し岸壁は海側に移動していると説明。そして、土の特徴を判りやすく説明し、ペットボトルを使い、摩擦力・液状化を模式した簡易実験を行うことで、分野外の人でも判りやすく、液状化現象について理解が深まる講義であった。



写真－1 メイン会場立て看板



写真－2 清水正喜教授

3.2 特別セッションⅠ「事件事例から学ぶ!!今後の防災活動について」

東北大学の東日本大震災における NMR 装置の被害耐震対策改善から、京都大学のヒヤリハット例、横浜国立大学の防災・減災の取り組みについて発表があった後、全体ディスカッションがあった。個々の大学の取り組みと改善方法など、我が大学にも取り入れるべき事項が多々あった。

3.3 特別セッションⅡ「各機関の安全衛生における管理・活動体制について」

埼玉大学における薬品管理、北海道大学における法人化における安全管理の変化も大阪大学における現場の巡視と安全教育についての発表があった。安全管理についての意識改善から、取り組みの一環、仕事の工夫や注意点、安全管理と言った取り組みの討議があった。



写真-3 特別セッションⅠの様子



写真-4 特別セッションⅡの様子

3.4 1日目、2日目ポスタープレビューとポスター発表



写真-5 ポスタープレビューの様子



写真-6 ポスター発表の様子

4. おわりに

今回の研究会では、各大学の取り組みや実験方法、開発など普段聞くことのできない特色のある技術報告を見聞することができ、大いに刺激となり今後の職務遂行に大変有意義な研究会であった。

最後に、本研修をお世話いただいた鳥取大学の関係者の方々に深く感謝申し上げます。